

これが戦時にアメリカで品種改良が進み、同地における自給体制の確立に伴い、一時不振に陥ったことなど園芸業界におけるエリの消長の歴史も興味が深い。(津山 尚)

○ヤグルマアザミ北海道に帰化す (浅井康宏) Yasuhiro ASAI: On Brown Knapweed, naturalized in Hokkaidō, Northern Japan

欧洲原産の多年草である *Centaurea jacea* Linnaeus, Sp. Pl. 914 (1753) は、既に古く明治末年に我国へ觀賞用として輸入、栽培された記録がある。一方、本種は現在、北アメリカやカナダなどの路傍、荒蕪地にも広く帰化しており、Brown Knapweedあるいは Brown-headed Knapweed と呼ばれている。ところで頃日、筆者は北海道に帰化していると云うヤグルマギク属の標本を調べる機会を得たが、種々検討の結果、上記のものと判定した。

周知の通り、現在まで我国に渡来、帰化した記録のある *C. melitensis* L., *C. solstitialis* L., *C. calcitrapa* L. などの本属の各種は、いずれも全草(特に総苞片)に鋸い棘を有しているが、しかし本種は草丈 1 m 内外にも達し、頭状花も略 3 cm 許で、しかも桃紫色の顯著な舌状花を有しており、全草を含め総苞片も無棘である。また総苞片附属物は櫛歯状に細裂せず、不整に浅裂する特徴をもち、近似種との区別点となっている。なお、今回の標本は、北海道東部の標茶町、別海村の西別川の支流であるボンベツ川流域(海拔 40~50 m)において、1967年8月25日に採集されたものである。因みに本種は現在、局所的にもせよ可成り広く拡っているらしく、採集者のノートによれば、該地の路傍など約 2 km の範囲に亘って分布し、シロツメクサ、アカザ sp., エゾイヲクサなどと混生して生育している由である。その近郊は、明治末年頃から開拓が行われ、現在もなお酪農が続けられているとのことであるから、恐らく栽培逸出起源と考えるよりも、むしろ北アメリカなどから牧草などに随伴して持込まれた帰化植物の一つと考える方が妥当と思われる。

終りに、本種を採集され、詳細な生育、分布記録をよせられた細川音治氏、また興味ある標本の検討の機会を与えられ、種々御援助下さった東京大学理学部植物学教室の原 寛教授及び黒沢幸子氏に対し、謝意を表する次第である。 (東京歯科大学)

### Summary

*Centaurea jacea* Linnaeus is widely distributed in Europe and naturalized in North America. Recently, the plants were found in waste grass-fields along the Nishibetsu river (ca. 40-50 m. above the sea level), eastern part of Hokkaidō. But, these may have probably been introduced from Europe or North America mixed up with grass seeds for pastures imported from the same regions. At present, this Brown Knapweed established make a new addition to the local flora of the Hokkaidō, Northern Japan.